

保険診療拡大で負担軽く

内容の見直しが行われている保険診療。これまで自由診療だった治療法や、対象でなかった病気が、新たに健康保険などの公的医療保険の適用対象となり治療の可能性が広がることもある。有効に使いたい。

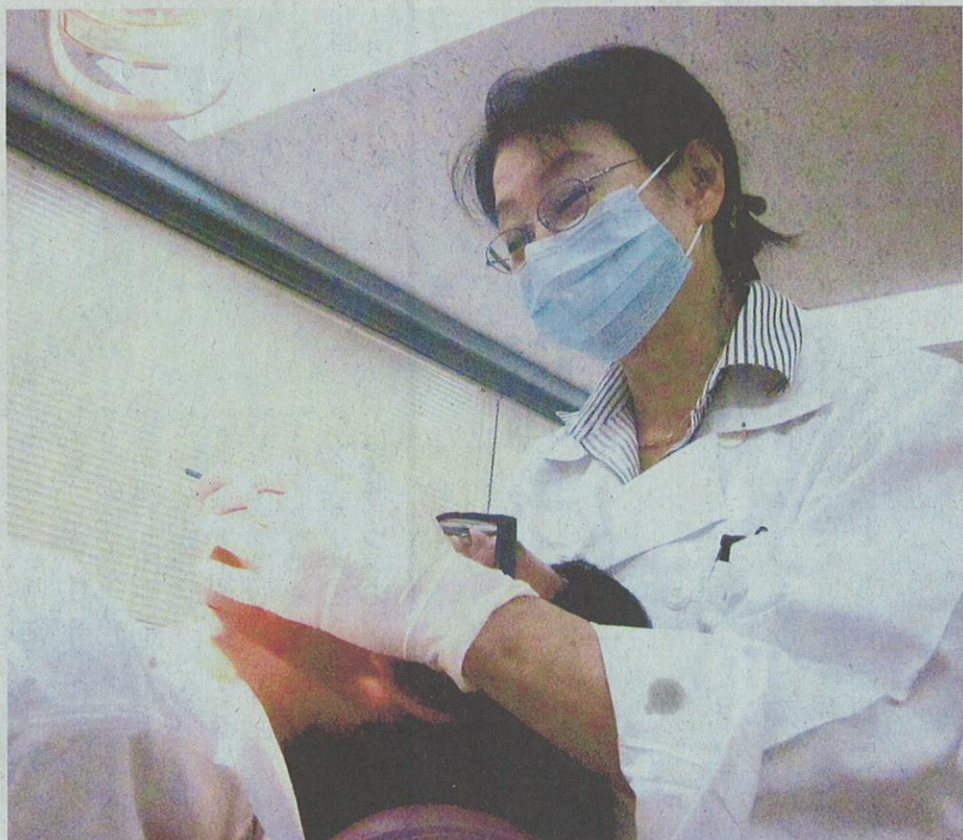
●高額で一度は断念

東京都内の男子大学生(22)は生まれつき永久歯が11本少なかった。10歳ごろ、虫歯治療のために撮ったX線写真で偶然判明した。それからは乳歯を温存しながら主治医と治療法を探った。ある病院では「抜歯してインプラントを入れる」との提案を受けたが、断念した。高価なインプラントが多数必要となり、治療費が200万〜300万円に上るからだ。矯正治療で歯の隙間を整理すれば治療法も広がるが、その当時は一般の歯列矯正と同様、保険は適用されなかった。

永久歯が足りない「先天欠如」は珍しくなく、およそ10人に1人にあるとされるが、多数の場合は珍しい。永久歯の本数が少ないと、かみ合わせなどに大きな問題を生じ、1本の歯にかかる負担が通常より大きいため、歯の寿命も短くなりやすい。見た目を気にして引込み思案になるなど、心理的な影響を受ける子どももいるという。

2012年度からは、先天的に永久歯が6本以上足りず、認可を受けた矯正専門歯科などで治療を受ける場合、原因となる病気の有無に関わらず矯正治療に保険が利くようになった。自己負担は3割で済む。小児の医療費を無償化している自治体では、その対象なら無料だ。

大学生は主治医から保険適用の話聞き、1年前から矯正を開始。自己負担の総額は40万円を切る見込みだ。「親



11本の先天性永久歯欠如で歯列矯正を受ける大学生。「保険が適用になったので安心して治療が受けられる」と話す—東京都内で

近年対象になった治療法の例

- ◆乳がん患者のシリコン製人工乳房による乳房再建
現在主力の「しずく形」も今年、保険適用になった
- ◆慢性胃炎のピロリ菌除菌
1度目で除菌が成功しなかった場合の2次除菌まで。事前に内視鏡検査が必要だが、検査も保険適用される
- ◆禁煙治療
ニコチン依存度が高く、喫煙本数が多いなどの条件に当てはまる場合
- ◆脇の下の多汗症のボツリヌス療法
ボツリヌス毒素を精製した薬を脇の下に注射する。重症患者が対象
- ◆弱視や斜視の子ども治療用めがね・コンタクトレンズ代

の負担が減ってよかった。保険が利かなければ今も「どうしたらいいだろう」と治療に踏み込めずにいたかもしれない」と話す。矯正治療後、空いた部分には保険診療で人工歯のブリッジをつけて、不足を補うつもりだ。

担当医で日本臨床矯正歯科医会の野村泰世専務理事は「保険適用になったことは一般歯科や保健所でも知らない人が多い。治療の機会を得られるよう、周知を図りたい」と話す。

●花粉症も対象に

多くの患者を悩ませるスギ花粉症への舌下免疫療法も今

月2日、保険適用が決まった。適用される治療薬「シダトレン」が10月8日から販売になる。講習を受けた医師のいる病院で処方できるようにする。

使えるのは12歳以上65歳未満。1日1回舌下に垂らし、2分たったら飲み込むだけ、と簡単で、注射による従来の免疫療法に比べて痛みや通院の苦痛を減らせる。治療では1年間の服用で7割の人に、2年間で8割の人に効果があったという。

免疫療法に詳しい大久保公裕・日本医科大学教授は「症状を抑える薬ではなく、その人の免疫に働きかける治療法なので、完全に治ってしまう人

●主治医と相談を

ほかに公的医療保険の適用範囲が最近拡大されたものには表のような例がある。

保険診療で使える薬を調べたい時は、厚生労働省のウェブサイトの「薬価基準に収載されている医薬品」一覧で確認できる。治療法については、主治医に相談するほか、厚生省の最先機関の地方厚生局でも問い合わせに応じる。

【田村佳子、写真も】